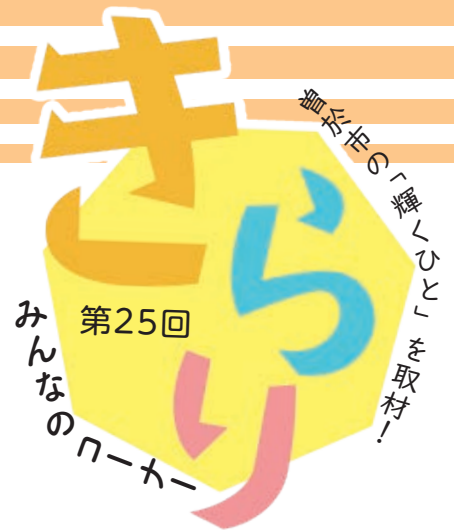




農家に嫁ぎ色々な学びを通して、異業種の方との会を立ち上げ地域の居場所づくりに奮闘している橋口さんにお話を伺いました。

財部町在住

橋口 まゆ さん



— どういう経緯で曾於市に？ —

結婚式会場で働いていた時に夫と出会いました。財部の優しく楽しい地域性に惹かれて茶農家に嫁ぎました。始めは何も分からず大変な思いをしましたが、夫と母が畑仕事の8割を担い、自分が販売を担う役割で成り立っています。お茶の摘採が4月から10月のため11月から3月は比較的落ち着くのですが、私は地域活動やお茶の販売で年間通して忙しくしています。

— 地域活動の内容とは？ —

3年前に農業をしている14名で自分たちに必要な居場所づくりとして「ソオウーマンファーマーズ」を設立。みんなで加工食品を作り販売したり、昨年は、女性農家の50〜70代の方と、自分たちの想いを残すため自分史を作りました。農業をしている女性は「みんなが仕事をしている時に、自分だけ外出するというのはハードルが高い」そんな現実も記録として残したら、他の地域で農業を頑張っている人との共有や対話をするきっかけになるのではないかと思います。今年は若い世代に行政に関心

を持つてもらうため、メンバー4人で曾於市総合大学との関わりをもつなど意欲的に活動しています。

— 「ソオティートリップ」の成り立ちとは？ —

生活の中において、家庭と仕事と第3の場所（サードプレイス）が必要だと立ち上げた団体です。8名のメンバーとイベントに出て、得た収入は募金し、異業種の方と話ができる場になっています。

— 活動にあたり何を大切にしていますか？ —

私の優先順位としては茶業と家族が最優先。私が活動することを夫がどう思っているか一番気になります。他の人に言われることは気にならない。夫が窮屈な思いをするのは嫌だと思いますが、夫も母も良き理解者です。



— 男女共同参画についてどう思う？ —

私の友人は、暴力や生きづらい環境を言えないままに、1歳の子を残したまま亡くなってしまいました。その事が私の中ではずっと課題になっています。この悲しい出来事無くす事は出来ないと思いますが、居場所づくりの活動をやっていくことで、一人でも関心を持ってくれる人が増えることを願っています。

農家に嫁ぎ農業を経験して女性の居場所作りが必要と感じ、若い世代と行政との架け橋や、SNSを通して移住促進の手助けを行ってられます。

また地域からの意見や対話を大切にし、曾於市に住む人達が楽しめる様に色々なイベントを手掛け、自ら新しいことに挑戦されています。地域のリーダーとして活動される橋口さんは「一人でも誰かの力になれば」と力強く話されました。

【取材：県男女共同参画地域推進員】
馬場雅子・島子正一郎・末永順子